

審議会等名	令和6年度第1回つくばみらい市在宅医療・介護連携推進協議会
開催日	令和6年2月5日（水曜日）
開催場所	つくばみらい市役所 伊奈庁舎 3階 大会議室
出席者	出席委員 小松崎八寿子会長、横張雅彦委員、宮本瞳委員、南承佑委員、菊池芳英委員、菊地広志委員 事務局 保健福祉部：片倉部長 介護福祉課：成嶋課長、飯泉課長補佐、原田係長、折口 社会福祉協議会：浅川局長、伊藤課長、阿部センター長、横田看護師、藤木看護師
議案	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度取組実績報告 ・令和7年度取組予定 ・茨城県在宅医療連携体制検討会議設置要項
議案概要	<ul style="list-style-type: none"> ・開会 午後6時30分 ・委員紹介 ・会長あいさつ ・議事 <p>(1)「令和6年度取組実績報告」 (2)「令和7年度取組予定」 <議事(1)(2)について事務局より資料に基づいて説明></p> <p>(菊地委員) ACPの理解について、多職種間の意見の相違があるとのことだが、どのようなことか教えていただきたい。</p> <p>(事務局) ACPは「緊急時に蘇生する、延命する」と捉え、緊急時の対応について話し合いをもつことと理解している方や「これまでの生き方や生活歴を含めその方を理解する」と捉えている方がいるため、ACPの理解についてその差を埋めていきたいと考えている。また、急変時の対応について言葉の捉え方に差異があると申上げたところについては、医療職は、がんの末期で具合が悪くなった際にどうするかと捉えているが、デイサービスや介護施設等の介護職においては、発熱等の体調の変化も急変に含まれるのではないかと、言葉の受取り方の差を埋めていければと考えている。</p> <p>(菊地委員) 施設において、看護職と介護職間での看取りや急変の考え方の相違があるため、こういった意見がでるのはよいと思う。</p> <p>(宮本委員) 医療と介護の立場によって受取り方が違うことを医療の立場から感じており、考えさせられたところである。症例検討会の年</p>

度目標とは、症例検討会に沿った年度目標なのか、令和6年度における年度目標なのか教えていただきたい。

(事務局) 令和6年度にあげている年度目標となる。

(菊地委員) もしバナゲームとはどういったものか教えていただきたい。

(事務局) もしバナゲームとは、そのひとの大切にしていることやどんなことを大切にするか、1項目ずつカードに記載されている。そのカードを選択し質問項目に回答していくと、最終的にそのひとが大切にしていることが分かる内容のものとなっている。2月17日にもしバナゲームの体験会を予定している。

(宮本委員) 事業所にもしバナゲームを所有しているため持参することも可能である。

(菊池委員) 市民向け講演会の評価について、親の介護をするようになる子ども世代をターゲット層に設定していたということだが、ワーキンググループメンバーとして活動していた頃、いざ親の介護に直面してみないとわからないこともあるため、どのようにターゲット層にアプローチしていこうとお考えか。

(事務局) SNSを活用しコラム等を発信していければと検討しているところである。

(菊池委員) 以前、ワーキンググループ内でも上がった意見でもあるが、市内企業で介護離職に直面している方もいるのではないかと考えると、企業訪問や企業内にお困りの方はいないか伺いに行く等はどうかとの案もあった。ターゲット層とする親の介護をするようになる子ども世代は、課題意識や困っていることがないと情報を見ないこともあり、どうしたら情報が届くかと思うところはある。

(事務局) 現在のワーキングメンバーからも企業への周知ができればと案が出ているところではある。周知方法について引き続き検討していく。

(3) 茨城県在宅医療連携体制検討会議設置要項
<事務局より資料に基づいて説明>

・閉会 午後7時15分

そ の 他

傍聴人 0人